

深井聡一郎 [東北芸術工科大学教授] 推薦

近藤七彩 Kondo Nanase

工芸美術家

古家具／鉄／塗装

古い家具や道具を用い、解体・再構築することで新たな解釈を発見する作品を制作しています。

1997年 岩手県盛岡市生まれ
2020年 東北芸術工科大学 工芸専攻 卒業
2022年 東北芸術工科大学大学院 芸術文化専攻工芸研究領域 修了
現在 山形県山形市在住、制作



南昌伸 [金属造形作家、広島市立大学名誉教授] 推薦

古川千夏 Furukawa Chinatsu

七宝作家

有線七宝技法

七宝釉薬の艶、純銀のきらめき等それぞれの素材感や陰影、異素材の調和の面白さが感じられる表現を目指しています。従来の技法を問はずことで、新たな七宝の魅力を引き出したいと思っています。

1993年 広島県生まれ
2018年 広島市立大学大学院 芸術学研究科造形芸術専攻 造形計画研究金属造形研究室 修了
現在 広島県在住、制作



藤原元 [石川県立九谷焼技術研修所次長] 推薦

板橋茉里 Itabashi Mari

陶芸作家

磁土／彫り込み

透光性の磁土に植物や文様を彫り込み成形しています。磁土の美しさ、釉の魅力を引き出し、釉薬の中に溶け込んだ景色がどこか観る人の曖昧な記憶や遠い夢に繋がり、心を揺さぶるような作品の制作を目指しています。

1984年 東京都三鷹市生まれ
2010年 スクールオブビジュアルアーツ(NY, USA) 卒業
2017年 石川県立九谷焼技術研修所 実習科(加飾)修了
2018年 石川県立九谷焼技術研修所 実習科(造形)在籍中
現在 石川県金沢市在住、制作



駒井正人 [陶芸家、多治見市陶磁器意匠研究所職員] 推薦

宇佐美 賢祐 Usami Kensuke

陶芸家

轆轤成形／磁土／高火度釉

素材や技法と私の関係性の構築に立脚点を置いた制作を行っています。その関係性が偽りなく形而下の存在として立ち現れることを期待して制作を進めています。

1995年 埼玉県朝霞市生まれ
2020年 京都大学 総合人間学部 卒業
現在 多治見市陶磁器意匠研究所 セラミックスラボ在籍
岐阜県多治見市在住、制作



齋藤敏寿 [作陶家、筑波大学芸術系工芸領域准教授] 推薦

佐藤静恵 Sato Shizue

ガラス造形作家

キルンワーク／パート・ド・ヴェール

ガラスのメッシュが熱と重力で伸び広がり、形を成していくダイナミズムを表現した作品を制作しています。一目一目、想いを紡ぐようにガラスのメッシュを描いています。

1983年 埼玉県生まれ
2006年 多摩美術大学 美術学部工芸学科ガラス専攻 卒業
2013年 シドニー大学シドニーカレッジオブアート スタジオアートコース 留学
2015年 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 博士前期課程芸術専攻 修了
2022年 金沢卯辰山工芸工房 ガラス工房研修者 修了
現在 石川県金沢市在住、制作



佐々木類 [ガラス作家、前金沢卯辰山工芸工房ガラス工房専門員] 推薦

田中里姫 Tanaka Saki

ガラス作家

ホットワーク

瞬間的に目に映った景色、現象、物事にふと目が奪われ心が動く感覚。言葉で表すことができないけれど確かに存在するその感覚を追求し、ガラスで表現していきたいです。

1995年 青森県むつ市生まれ
2018年 秋田公立美術大学 卒業 秋田市新屋ガラス工房勤務(〜'21)
2021年 金沢卯辰山工芸工房 ガラス工房研修者 所属
現在 石川県金沢市在住、制作



若宮隆志 [彦十蒔絵プロデューサー、2014年度文化庁文化交流使] 推薦

井坂友美 Isaka Tomomi

漆芸家

蒔絵／螺鈿／卵殻

蒔絵は漆や金銀粉等の素材の美しさと、人間の精緻な技術によって格調ある美しさを創り出しています。そこにふと力が抜けるようなユーモラスな画題を合わせて、技法と画題のギャップを楽しみながら制作しています。

1988年 愛知県春日井市生まれ
2016年 京都伝統工芸大学 蒔絵科 卒業
蒔絵作家 箱瀬淳一氏に師事(〜'20)
2020年 彦十蒔絵に参加
現在 長野県南佐久郡在住、制作



栗本夏樹 [漆造形作家、京都市立芸術大学漆工専攻教授] 推薦

河合 桂 Kawai Kei

漆造形作家

乾漆／蒔絵

私は宗教的、民族的な模様や装飾に興味があります。蒔絵など漆ならではのさまざまな加飾技法を用いて模様を描くことで、そのもの自体に力を与え、周りを包む空間を意識して制作しています。

1996年 兵庫県神戸市生まれ
2022年 京都市立芸術大学大学院 美術研究科漆工専攻 修了
現在 兵庫県神戸市在住、制作



吉川千香子 [陶芸家] 推薦

鳥居美希 Torii Miki

陶芸作家

手びねり

やわらかくも力強い土のエネルギーを受けとりながら、内的な世界、記憶と想像のあいだにうつろうものを表現しています。主に手びねりで、土と自分との対話を重ねてカタチを見出しています。

1988年 愛知県岡崎市生まれ
2022年 とこなめ陶の森陶芸研究所 修了
現在 愛知県在住、制作



森野彰人 [陶芸家、京都市立芸術大学美術学部教授] 推薦

山本 真実江 Yamamoto Mamie

陶芸作家

陶土／手びねり／化粧土

記録している写真やドローイングを土に彫り、表面に化粧の層を重ねて装飾をします。ただ描くだけではなく記憶を土に刻むように、版木を彫るような感覚で制作しています。

1992年 京都府生まれ
2016年 国立高等装飾美術学校(フランス)交換留学
2017年 京都市立芸術大学大学院 美術研究科修士課程 工芸専攻 陶磁器分野 修了
現在 京都府在住、制作



中島晴美 [陶芸家、多治見市陶磁器意匠研究所所長] 推薦

伴和憲 Ban Kazunori

陶芸家

手びねり

粘土でびび模様を意図的に表現しています。そこには荒々しく内面の部分が知らぬ間に現れています。焼成では窯の中に粗殻と炭を入れることで、完全燃焼と不完全燃焼による黒から白の変化を出しています。

1995年 愛知県阿久比町生まれ
2017年 名古屋芸術大学 卒業
2018年 多治見市陶磁器意匠研究所 技術コース 修了
2021年 愛知県立芸術大学大学院 美術研究科美術専攻 彫刻領域修士課程 在籍
現在 岐阜県多治見市在住、制作



山本健史 [陶造形家、金沢美術工芸大学工芸科教授] 推薦

劉 方璐 Liu Fanglu

陶芸作家

手びねり／ガラス素材の併用

鎮座獣は自分の芸術的価値観と人間社会への美しい願いを表現している。東アジアに古くから伝わるモチーフであるが、現代社会における私の創作は、複雑な社会環境と開放的な文化環境の中で表現される。

1992年 中国・陝西省生まれ
2022年 金沢美術工芸大学大学院 工芸美術研究科 修士課程 修了
現在 金沢美術工芸大学大学院 工芸美術研究科 博士後期課程 在籍 石川県金沢市在住、制作

